

# “エコ・ロジス”活動の推進

飯島康司\*

“Economy & Ecology Logistics” Activity Promotion  
Yasuji Iijima

## 要旨

三菱電機グループの物流部門の“環境負荷低減活動”は、1993年の第1次環境計画から家電製品に使用される包装材料の一つで、緩衝固定用の“発泡スチロール”の使用量削減から取り組みを始めた。

1995年からの第2次及び第3次環境計画では、発泡スチロールだけでなく、使用している全包装材料を対象に使用量の削減に取り組んできた。

2002年度からの第4次環境計画では、包装材料使用量の削

減活動のほかに、昨今の連結経営における情報開示と地球温暖化の原因とされる製品出荷後の輸送におけるCO<sub>2</sub>排出量削減を中心に、主要取り組み課題である三本柱の一つとして、“エコ・ロジス”活動を推進している。

エコ・ロジス活動では、製品物流（販売物流とも言う）における輸送中のCO<sub>2</sub>排出量の削減と包装材料の使用量削減を推進する。

## エコ・ロジス活動の推進

### .CO<sub>2</sub>排出量削減活動

#### 1. モーダルシフト(JR輸送)の拡大



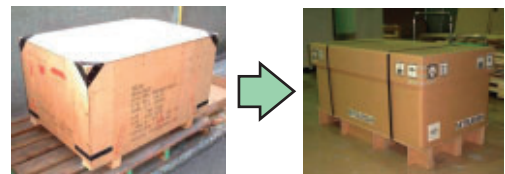
#### 2. 輸入品物流における複合一貫輸送 (海上輸送と鉄道輸送の組合せ)



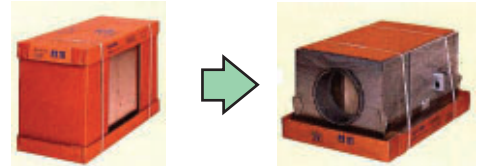
#### 3. 車両への積載率向上

### .包装材料使用量削減活動

#### 1. 木材使用量の削減



#### 2. 簡易・軽量包装化推進



#### 3. リターナブル包装の拡大



## エコ・ロジス活動

エコ・ロジス活動とは、“Economy & Ecology Logistics”活動で、物流改善と環境負荷低減活動をリンクし、“コストミニマム環境対応型ロジスティクスシステム”の構築を目指すものである。

このため、輸送では、荷主企業として、製品輸送中のCO<sub>2</sub>排出量を削減し、“地球温暖化防止”に取り組む。包装では、包装材料を廃棄するのではなく、再活用を含めた資源の有効利用により“循環型社会形成”に向けた取り組みを推進する。

\*生産システム本部